

『ロストボーイズ』

近藤茶

【元にした作品】
無し

【あらすじ】
深夜の公園で出会った、不登校の少年とサラリーマン。行き場所のない二人は徐々に友情を育んでいく。しかし少年の両親が離婚をすることをきっかけに、雨の日の夜、二人は居場所を求めて自転車で走り出す。

【特記事項】
孤独や葛藤を抱えた少年と、その少年にかつての自分の人生の影を見る大人の交流を描いたオリジナル脚本です。

【本編文字数】
6141文字。

「第一話」

優 N　この公園が、僕の居場所だと思った。

深夜の公園。優、ベンチに腰掛ける。優、しばし一人でボーっと座っている。田中、現れる。優を見つけると、隣に座る。優、あからさまな態度には出さないが、田中を無視するように目を伏せる。

田中　こんばんは。

優　……。

田中　こんばんは

優　……こんばんは。

田中　よく会うね。毎晩来てるの？

優　……。

田中　こんな時間まで出歩いてて大丈夫？ 明日も学校でしょ？

優　……。

田中　まあいいんだけど。いいよね、ここ。

優　……はあ。

田中　向こうにさ、もうちよつと大きい公園あるけど、あつちはちよくちよく人いるし。鉄棒と砂場だけでぎりぎり公園って感じがいいよね。

優　あの、

田中　うん？

優　……何か用ですか？

田中　いや、何してんのかなーって。前から気になって。ちよつと話してみたいなーって。

優　そうですか。

田中　何してるの？

優　……椅子取りゲーム。

田中　うん？

優　夜の街って、椅子取りゲームみたいだと思って。

田中　……というと？

優　みんなで空いてる場所を取り合って。コンビニの前とか、駐車場とか

田中　公園のベンチとか？

優　……先に座られたら負けで。とられたら、空いてる別の場所を探す。みたいなのが、椅子取りゲームに似ていると思って。

田中 椅子取りゲーム……。
優 だから、それをやってます。
田中 そうなんだ。
優 はい。
田中 ……ひよっとして、自分が先に取った場所だと主張してる？
優 (田中の言葉を見無視してスマホを見る) 2時半……。

しばしの間。

田中 でもさ……ベンチって二人掛けじゃない？ てことはルールのにはセーフじゃない？
優 (何か言い返したいが、言い返しが思いつかない)
田中 じゃあいいじゃん、こういうのも。深夜の公園で出会った二人。なんかドラマ始まりそうだね。
優 (小声で) おっさんと出会っても……。
田中 おい、おっさんって。
優 すいません。
田中 少年は何歳？
優 (「少年」という事に反応するが、本名を教えるのも面倒で結局何も言わず) ……16です。
田中 高校生か。いいなー高校生。
優 よくはないです。
田中 そっか。まあ、いろいろあるよな。
優 おっさんは何してんですか？
田中 少年と話してる。
優 そうじゃなくて。
田中 多分、少年と一緒にだよ。大人も、逃げ出したい夜があるのです。
優 連日來てるじゃないですか。
田中 少年もね。
優 ……。
田中 いいよね、そういう時に。逃げ場みたいのがあると。
優 逃げ場……。
田中 違う？
優 ……行き止まり、みたいだなって。
田中 行き止まりで出会った二人。ドラマ始まりそうじゃない？

優、田中の言葉を無視する。

「第二話」

数日後。優が一人でベンチに座っている。田中、現れる。手にはコンビニの袋を持っている。

優 (挨拶をしようとする)

田中 (優の言葉をかき消し) 花火しようぜ！

優 ……なんで？

田中 コンビニで売ってて。

優 ……別に、いいですけど。

田中 よっし。

田中、花火の準備を始める。優、その様子をなんとなく見ている。

田中 花火ってさ。

優 はい。

田中 何が楽しいんだろうね。

優 はい？

田中 あんまやる事ないし。どれもだいたい一緒じゃない？

優 自分でやろうって言ったんじゃないですか。

田中 やり始める前がピークなんだよね。

優 持って走り回ったりとか、なんかこう、グルグル回してみるとか。

田中 おっ！

田中、花火に火をつけ走り出す。すぐ戻ってくる。

田中 ……一緒にやっってはくれんのか。

優 通報とかされたら、まずくないですか？

田中 ……先言ってよ。

田中、静かに花火をする。それでも光と音に、優は通報されないかが気になって落ち着かない

田中 少年はやんない？

優 はあ……。
田中 花火、嫌い？
優 いや、嫌いじゃないですけど。
田中 花火大会とか、行かないの？
優 ああ。
田中 行かなそうか。
優 あんま、興味ない、ですね。
田中 なんて？
優 ええ……。？ いや、あれこそ、何もする事なくないですか？ 別に、感動とかしな
いし。
田中 いや、凄いのは見るとやっぱすごいよ。ちゃんと感動する。
優 行くんですか？
田中 いや、行かないけど。行ったら感動するんじゃないって。
優 なんすかそれ。

優、花火に火をつける。

優 小っちゃくても、自分で火つける方がいいです。
田中 ん？
優 いや、許された火遊びがこれかなって。
田中 ああ、なるほどね。確かに。だからテンション上がるのか。理科の授業とかでき、
失敗したふりしてマッチとか何本もすったりしてたな。
優 ああ、はい。
田中 実家の仏壇の線香とかめっちゃ火つけてたりしてたなー。やんなかった？
優 それはあんま……。ああ、でもろうそくをライターで溶かしたりとかはしたかも。
めっちゃ怒られましたけど。
田中 もうやってないの？
優 ばあちゃん死んで、ばあちゃんなくなっただんで。
田中 ……そっか。
優 両親共働きで、だいたいうちにいなかったんで。よくばあちゃんち行ってて。
田中 兄弟とかは？
優 いないです。
田中 じゃあ、そっからはいつも家で一人だったんだ。
優 そうですね。
田中 ……寂しいな。
優 ……なれましたよ。

田中、コンビニの袋からビールを取り出す。

田中 飲むか！

優 いや、未成年なんで。

田中 真面目か。えっ何、親に隠れて飲んだことかないの？優等生だな。

優 (少しムキになり) いや、別にのめなくは……。

田中 じゃあ、ほい。

優、仕方なく受け取る。少し躊躇するが意を決して飲む。味がまずくて、吐き出す。

田中 不味い？

優 ……いや、普通っすね。

田中 (優からビールを奪い) 大人の味だな。大人はこれで大概の問題を解決するのだ。主に忘れるという形で。

優 しょうもな。大人、しょうもねー。

優、花火の袋の中から打ち上げ花火を出す。

田中 えっ、それやんの。通報とかされたら……。

優 やったら速攻逃げます。

田中 (笑って) まじか。

優、導火線に火をつける。

田中 なんかいろいろ嫌になったらさ。

優 はい。

田中 一緒に逃げるか？

優 はい？

田中 どっか遠く行くか、二人で。

優 何言ってるんすか？

打ち上げ花火の音。

田中 よし、逃げるぞ！

田中、花火を手早く片付けて、去る。

「第三話」

別の日。優の部屋。激しい雨の音。

優
今日は……流石に来ないか。

扉の開く音。

優。

(驚いて) どうしたの? 珍しいね。

ちよといい?

……うん。

学校、行ってないの?

……。

どうして?

……ごめんなさい。

……学校の話なんて、全然聞こうとなかったもんね。

……。

母 優
ごめん。今まで。優は、昔からいい子だったから。ずっとそれに甘えて、仕事ばっかり優先しちゃって。ちゃんと、家族の話、してこなかったもんね。

……ごめん。

母 優
これからは、ちゃんとそういう話をしていこう。

うん。

母 優
お父さんとも話しあってね、それで……別れて暮らした方がいいんじゃないかって。

えっ?

母 優
ずっとね、お父さんとも大事なこと話してこなかった。家族っていう形を、維持することばかり考えて。ちゃんと、話をしてこなかったの。でも優のことがあって、二人でちゃんと話して、そう言う事も考えた方が良くないんじゃないかって。……。

母 優
どっちについて行くとか、優がちゃんと決めていいから。だから……。

優、部屋を出ようとする。

優母

……ちよっとコンビニ行ってくる。

(何か言おうとする)

(母の言葉を遮り) すぐ戻るから！

優、外に出る。傘もささず、歩く。優、おかしそうに笑っている。

公園。傘を差した田中がいる。優を見つけ驚く。慌てて傘の中に優を入れる。

田中 何してんの？傘は？

優 (笑って) なんでいるんすか？

田中 えっ？

優 来ないでしょ、この雨で。

田中 いや……少年も。

優 通りかかっただけっすよ。コンビニ行くとこなんで。

田中 傘は？

優 あー、なんか。忘れました。まあ、平気かなって。

田中 平気じゃないだろ。

優 いや、ちよっと頭冷やそうかなって。

田中 ……なんかあった？

優 ああ……親が、離婚するかもって。

田中 えっ？

優 あ、離婚がショックとかじゃないですよ？もう、無理だろうなって前から思ってたんで。親父、ほとんど家帰ってこなくなってたし。あつ、親父医者なんですけど、ずつともう病院泊まり込みみたいな感じで。まあ、どこまで本当かわかんないですけど。

田中 おお……。

優 家族でいるために話し合わないようにしていたんだけど、ちゃんとした家族でいるために話し合っただけで離婚することになりました。

田中 ……どういう事？

優 意味わかんないですよね。俺もよくわかんないです。ただ……俺のせいかなのかな……。

田中 少年のせいじゃないだろ。

優 夜、眠れなくて。寝るの怖くて。寝て、一日が終わると、取り返しつかないことになってるような気がして……前からそういう事はあったんだけど、最近ひどくて。昼間、頭フラフラしてもたないから学校行けなくて。ちよっと落ち着くまで、休んでるだけのつもりだったのに……それが原因で、こんなことになるなん

て思わなくて……。

田中 少年。

優 はい。

田中 どうしたい？

優 ……。

田中 今、何がしたい？

優 ……どっか遠くにいきたい。

田中 行こっか。

雨音は強くなっている。

「第四話」

雨音に混じって、自転車を漕ぐ音が聞こえる。自転車は古いのか、漕ぐたびに少し嫌な音がする。古びたママチャリに、田中と優は乗っている。田中が漕ぎ、優はその背中にしがみついている。

優N おっさんが自転車を持ってきて、それに二人で乗って走り出す。雨がひどくて、夜の街には誰もいない。濡れたシャツや、髪が体に張り付いて、気持ち悪い。真っ暗で、視界が悪くて、進んでいるのかわからない。

田中、自転車をこぎ続ける。

優 おっさん！

田中 ん？

優 なんか話して！

田中 何？

優 なんか、なんでもいいから。

田中 あー、じゃあ、どこ行こうか？ どっか行きたいところある？

優 ……。

田中 わかんないよな。じゃあ、新潟とか目指してみる？

優 えっ？

田中 新潟。長岡のさ、日本で一番でかい花火大会とか見に行こうよ。

優 ……。

田中 いや、行けるかわかんないけど。新潟とか、どんだけかかるんだよって感じだろうし。でもよくない？ 日本一目指して走ってみんの。

優 ……。

田中 すげえらしいよ、間近で見たら。三尺玉？とか。俺も見たことはないんだけど。でもみたらさ、感動するかもよ。

優 ……。

田中 だいたい200キロくらい？絶対無理って距離じゃないだろ。

優 詳しいね。

田中 ん？

優 (聞こえるように声を大きくして) 距離とかまで、知ってるから。

田中 ああ……まあな。

少しの間、田中は無言で自転車をこぐ。

田中 前に一回、行こうとしたことあるんだ、高校生の時に。

優 えっ？

田中 友達と二人で家出する約束して。で、とりあえず新潟目指してみようかって。

優 ……うん。

田中 結局、行かなかったんだけど。

優 ……なんで？

田中 ビビっちゃって、行けなかった、俺。決行日になって。情けねーわ、本当。

優 うん。

田中 だからさ、腹決めて進み出した少年はすげーよ。

優 ……進んでんのかな？

田中 ん？

優 行き止まりって、感じがする。

田中 何？

優 おっさん！かわって！

田中、自転車を止める。

田中 どうした？

優 自転車、漕がせて。

田中 どうした？

優 進んでるって思いたい。だから、自分で漕ぎたい。

田中 ……大丈夫か？これ、結構ぼろいけど。

優 大丈夫。

田中 わかった。

優、自転車を漕ぎ始める。慣れない二人乗り、ぼろい自転車のせいで真つすぐ進めない。フラフラしながら、進んでいく。

田中 大丈夫か？

優 はあ……はあ……はあ……はあ……

田中 おおい、ふらついでるぞ。

優 (上手くないかない現状にイラつき、徐々に呼吸が荒くなっていく)

田中 無理すんな、かわるぞ。

優 はあ……あー……あー……あー……ああ！

突然、優の脳裏に幼い頃の記憶が浮かぶ。まだ幼い優が乗る自転車の後ろを、父がおさえている。フラフラしながら、小さい自転車が前に進む。その様子を笑いながら母が見ている。

優 なんで……。

田中 少年！

自転車の倒れる。二人、路上に投げ出される。

田中 (優に駆け寄り) 少年、大丈夫か？

優 (倒れたまま) ああ……ああ、あー！

田中 ……。

優 くそ、くそ、あー、くっそー！

田中 ……。

優 なんだよ、何なんだよ！くっそ！

田中 少年……。

優 ああああ！ ああああ！ ああああああ！

田中 少年！

優 ……。

田中 雨、やんでる。

優 ……はあ？

田中 雨、やんでる。

優 だから？

田中 雨からは、逃げ切ったぞ！って。

優 ……。

田中

やまない雨はない、みたいないな!?

優

だからそれが何なんだよ!?! 今更やんで何なんだよ! 何にも意味ないんだろ!

田中

……。

優

(自分の服を掴み) もうぐつちやぐちやで! 気持ち悪くて。もう何にもなんないだろ!

しばしの間。

田中

帰るか?

優

……なんで?

田中

少年はどうしたい? 本当は何がしたい?

優

……。

田中

逃げようとしてみて、どうだった? 本当にそのまま進んでいいか?

優

……。

田中

本当は、違うんじゃないか?

優

……わかんないよ、そんなの。

優、起き上がり、自転車に近づく。

田中

少年……俺さ……子供、生まれるんだ。

優

えっ?

田中

奥さん妊娠して。でも、それ聞いた時、現実感全然なくて。この先どうなるんだろうとか、俺なんか親になっていいのかなとか思ったら怖くなっちゃって、それで夜中うろろしてて、少年に会ったんだ。

優

……。

田中

少年、俺と一緒に家出しようとしてた友達に、ちょっと似てんだよ。雰囲気っていうか。だから気になって。ほっとけなくて、話しかけた。

優

……。

田中

そいつ、俺が行かなかったから、一人で家出して。どこ行ったか、わかんないんだ。行方不明なんだよ。今でも。

優

えっ……?

田中

俺が自転車を迎えに行くはずだったのに。俺行かなかったせいで、一人で……そう考えるときつくて。考えないようにして。少年に会うまで、思い出しもしなかった。

優

……。

田中 最悪だろ、俺。友達から逃げて、子供から逃げて、親になることから逃げて。ずっと逃げ続けてきたんだよ。ずーっと。
……。
少年はこんなになるなよ。
……。
田中 かつこいい大人になれよ。
……なにそれ……。
田中 だから、帰ろうぜ。
優 なんなんだよ。わけわかんねーよ。
田中 うん、ごめんな。
優 自分はずっと逃げてたくせに。急にわかったようなこと言って、勝手な結論押し付けんなよ！
田中 そうだな。
優 振り回されるこっちはどうしたらいいんだよ。どう思えばいいんだよ！なんなんだよ！少しはこっちの気持ちも考えろよ！ふざけんな！ふざけんなよ！ふざけんなよ！
田中 ……ごめんな……本当どうしようもねーな。大人になっても人の気持なんかわかんねーし、責任とるのは怖いし、みっともない事したくなくて動けなくなってもっとずっとみっともない事しちまうんだよ。
……。
田中 ……そんな感じで、どうっすか？
……全然納得できない。
……。
優 本当にふざけんなって思う。
……そっか。
田中 俺はそんな風にならない。みっともない事なんかしない。逃げない！絶対！
……。
田中 かつこいい大人になってやるよ。
田中 おう。
……。
田中 ……。
優 帰るぞ！

田中を自転車をおこす。しかし少し考え、自転車を倒す。ガシヤン、という自転車の倒れる。

優 なに？

田中 自転車……ここにおいでく。

優 ？

田中 もう逃げないように。はじめだな。

優 ……不法投棄だ。

田中 ……俺今かつこよく決めようとしたんだけど。

優 ごみの不法投棄は犯罪です。

田中 だからそういう事じゃないじゃん。

優 かつこよくもなかったし。

田中 本当かわいくないなー。

二人、並んで、来た道を歩いていく。

終わり